日刊 動労千葉
87. 5. 2
No. 2541
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

革マル松崎、『4・7暴力事件』デッチ上げの前日に 当局に『クビ切り』を申し入れる

『4・7暴力事件』デッチ上げ弾劾 その6

動労革マル松崎と「千葉地本」土屋一派による「4・7暴力事件」デッチ上げに対して、動労千葉は、この間徹底的に弾劾し、デッチ上げであることを暴露してきたが、四月二〇日付「東鉄労」新聞第三号では、「4・7」デッチ上げ前日の六日に、九日付で本社に申し入れた「申第三号」同様の「申し入れ」がすでに行われていたことが判明した。四日も以前から動労千葉破壊のため当局と一体となり、デッチ上げを狙っていたことが改めて明らかとなった。

デッチ上げの前日に「クビ切り」を申し入れ

革マル・松崎が委員長におさまっている東鉄労で発行している新聞ー「東鉄労」は、「4・7暴力事件」がデッチ上げであることをはからずも暴露した。

「東鉄労」新聞第三号（四月二〇日付）によると、東鉄労と東日本旅客会社は四月六日に経営協議会を開催した。

この会議には当局側から住田社長、松田取締役、野宮勤労課長、東鉄労から委員長・林、柚木、副委員長・革マル奈良が書記長・瀬藤、企画部長・革マル松崎、千葉運行部長・谷崎、千葉運行部長・柴田、貨物から出席し、この中で、①新会社への移行後いまだに勤労意欲のない一部社員に対する会社側の対応 ②自ら社員を指導する立場にありながら毅然として対応できない現場管理者の教育の徹底を申し入れたとしている。

その翌日の四月七日、土屋粋が「暴力事件」をデッチ上げ、九日に、経営協議会が行ったのと全く同じ内容の「申第三号」を申し入れているのである。

つまり、「4・7暴力事件」デッチ上げが、当局、「鉄道労連」一体となって行われたことが明白ではないか。

「クビ切り」のための会議が公然と開かれ、それをもってデッチ上げが行われたのだ。絶対に許すことはできない。

本社を同行し銚子へ

また動労革マルは、デッチ上げ当日、土屋の教導として乗務していた高野に対し、四月十七日に事情聴取を行った。

動労中央から書記長・柴田、貨物から天内を銚子に入れようとしたが、単独では入れないため、「本社」が入るとウソをつき、本社勤労課・谷崎、千葉運行部・安形の同行を得てやっと銚子にたどりつき、どうにか事情聴取を行った。

しかし、デッチ上げである以上、いくら高野から事情聴取を行おうと何も出てくるわけがない。三〇分もたたない十七時すぎ、すごすごと引き上げざるをえなかったのだ。

「クビ切り」を要求する「鉄道労連」を解体せよ

このように、「4・7暴力事件」デッチ上げとは、当局と動労革マルが一体となってかけてきた動労千葉破壊のための卑劣な攻撃である。

そうである以上、われわれは全力を上げてこの「4・7暴力事件」デッチ上げを粉砕しなければならない。

中江勝利をかち取った底力を発揮し、「クビ切り」のためのデッチ上げを平然と行う「鉄道労連」を解体・一掃せよ。

前号No.2540、上段三行目の「八五年：・」は、「八六年：・」のまちがいでした。